



### F 大鐘家石垣

片浜にある大鐘家には、長屋門の手前に石垣があります。この石垣は、相良城が取り壊される際に買い取ったものといわれています。

### E 仙台河岸

相良城築城にあたり仙台藩主伊達重村が寄進した石材で築かれた船着場で、それにちなんでこのような名がつけられました。



### D 般若寺の杉戸

相良城御殿大書院の襖戸とされる杉戸が般若寺に残っています。10代將軍徳川家治に重用された狩野典信によって描かれたといわれています。

般若寺 牧之原市大沢695-1  
[アクセス] 東名相良牧之原ICから車で12分



悠久の時を越える魅力を見つけよう。

# 牧之原の歴史を訪ねて。

牧之原には、様々なジャンルで歴史を作ってきた人たちがいます。その足跡を辿れば、また違った牧之原の魅力に気づけるかもしれません。



### G 田沼意次のご当地マンホール

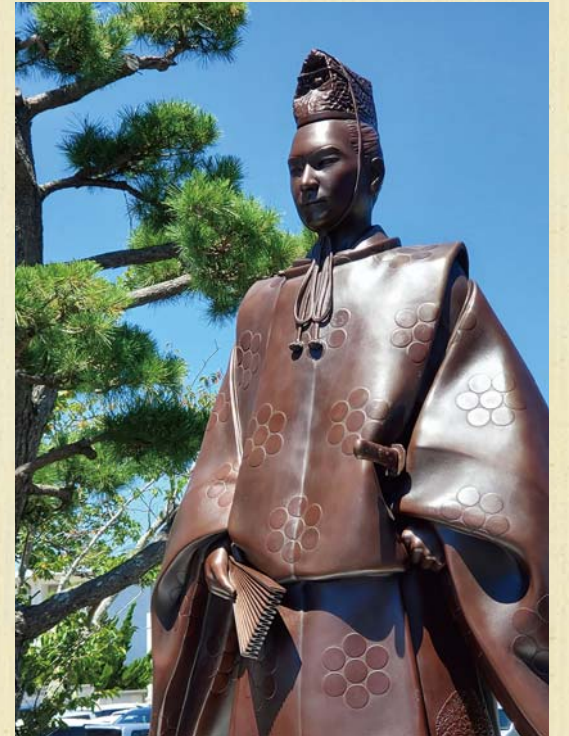
旧城下町相良の商店街に設置されています。意次を中心に、ゆかりのある大江八幡宮の御船神事や陣太鼓、牧之原大茶園や市の花あじさいが色鮮やかに描かれています。



### A 相良城本丸跡

本丸、二の丸、三の丸からなっていた相良城。牧之原市役所相良庁舎に隣接する牧之原市史料館の入口に、相良城本丸跡の石碑が建てられています。史料館では田沼意次や相良城に関する史料、そのほか牧之原市の文化財などを展示しています。二の丸があった場所には牧之原市立相良小学校が、三の丸があった場所には静岡県立相良高等学校が建てられています。

牧之原市史料館 牧之原市相良275-2 Tel./0548-53-2625  
[アクセス] 東名相良牧之原ICから車で17分、バス停相良本通から徒歩7分



### B 田沼意次の銅像

全国初となる田沼意次の銅像が史料館前に建立されました。銅像の高さは2メートルで、意次が相良藩主に就任した40代頃を描いたとされる肖像画をモデルとしており、端正な顔立ちで凛々しい立ち姿となっています。

### B 相良城跡の石碑

牧之原市役所相良庁舎と牧之原市史料館の間に建てられています。近くには本丸跡の石碑や仙台河岸、二の丸の松もあり、相良城の遺構を合わせて見ることができます。



### C 田沼街道

現在も日常的に利用されている、相良と藤枝を結ぶ街道。田沼意次が整備したことからその名が付いたそう。萩間川にかかる湊橋が起点とされています。

## おみやげにオススメ

## 田沼意次にちなんだお菓子



### 二朱銀

意次が貨幣改革において発行した「南鏡二朱銀」をモチーフとした銘菓。上品な甘さでしっとりとした口どけの良い上生菓子です。

甘蔵さかした 牧之原市坂部4972 Tel./0548-29-0507  
[アクセス] 東名吉田ICから車で8分



### 田沼茶羊羹

2019年の田沼意次侯生誕300年を記念し、相良高校生とコラボして誕生しました。茶畑をイメージした地元産茶葉使用のバームクーヘンに、羊羹と餡を包み込み、金箔を乗せています。

扇子家 牧之原市福岡4 Tel./0548-52-0218  
[アクセス] 東名相良牧之原ICから車で15分、バス停相良本通から徒歩5分 P22「牧之原さんぽ」61



### 陣太鼓最中

扇子家の先代である久八が、茶どころ牧之原に合うお菓子として陣太鼓を模し作った最中。100年以上に渡り受け継がれている味です。

## 田沼意次 (たぬまおきつぐ)

16歳の時に徳川家重の小姓となった田沼意次は、將軍に重用されて相良一万石を拝領し、宝暦8年に遠州相良藩主となりました。その後、第10代將軍「家治」に築城を命じられ、明和4年から築城を開始、安永9年に完成させました。これにより、城下町として町の整備が為され、「相良」と東海道の宿場町「藤枝」を結ぶ街道も整備されました。この街道は「田沼街道」と呼ばれ、現在の交通も支えています。老中を務めるようになった田沼意次は、当時悪化していた幕府財政を立て直すべく、それまでの農業主義から、商業を重んじる政策への転換を図りました。株仲間の奨励や外国との貿易拡大、商業の発展に力を入れ、見事財政は回復しました。しかし、金銭中心の生活となった社会に

は贈賄が横行することになってしまいました。その後、松平定信ら反田沼勢力に領地を没収され、隠居を余儀なくされます。天明8年、失意のうちに70歳でこの世を去りました。現代では、田沼意次が行った政治そのものが賄賂政治と思われがちで、その名を聞くと「賄賂」のイメージが付きますが、実は幕府の財政復活の立役者なのです。また、身分の低い家柄の出身でありながら老中の役職にまで登りつめることができたのは、優れた先見の明と創造力と、類稀なる努力の賜物だといえます。相良藩においても、街道や港などのインフラ整備や、製塩や養蚕をはじめとする殖産興業政策を行い、年貢を増やすことに頼らず政治を安定させた、「名君」でした。

